福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2020 年 9 月 18 日

社会福祉法人川崎立正福祉会
理事長 小林 慈瑛 様

〒 101-0047

所在地 東京都千代田区内神田3-2-14 コスモスビル2階

評価機関名 株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号 東京都機構 12 ー 218

電話番号 03-3251-4150

代表者氏名 代表取締役 谷口仁宏 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	筒井 正人	経営	H1701016
	②	福島 正晃	福祉	H1801066
	③	高野 真智子	福祉	H1701059
	④	谷口 仁宏	福祉、経営	H0305043
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	木月ほほえみ保育園			
事業所連絡先	〒	211-0025		
	所在地	神奈川県川崎市中原区木月4-14-5		
	TEL	044-948-4483		
事業所代表者氏名	川崎立正福祉会 理事長 小林 慈瑛			
契約日	2020 年 5 月 6 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2020 年 6 月 16 日			
利用者調査結果報告日	2020 年 7 月 7 日			
自己評価の調査票配付日	2020 年 6 月 16 日			
自己評価結果報告日	2020 年 7 月 7 日			
訪問調査日	2020 年 7 月 20 日			
評価合議日	2020 年 7 月 20 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。			

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2020 年　9 月　4 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　101-0047

所在地　東京都千代田区内神田3-2-14 コスモスビル2階

評価機関名　株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号　機構　12　―　218

電話番号　03-3251-4150

代表者氏名　代表取締役 谷口仁宏　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

		評価者氏名	担当分野	修了者番号
評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	①	筒井　正人	経営	H1701016
	②	福島　正晃	福祉	H1801066
	③	高野　真智子	福祉	H1701059
	④	谷口　仁宏	福祉、経営	H0305043
	⑤			
	⑥			

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	木月ほほえみ保育園		
事業所連絡先	〒	211-0025	
	所在地	神奈川県川崎市中原区木月4-14-5	
	TEL	044-948-4483	
事業所代表者氏名	川崎立正福祉会　理事長　小林　慈瑛		
契約日	2020 年　5 月　6 日		
利用者調査票配付日（実施日）	2020 年　6 月　16 日		
利用者調査結果報告日	2020 年　7 月　7 日		
自己評価の調査票配付日	2020 年　6 月　16 日		
自己評価結果報告日	2020 年　7 月　7 日		
訪問調査日	2020 年　7 月　20 日		
評価合議日	2020 年　7 月　20 日		
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、
- ● 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020 年　9 月　4 日

事業者代表者氏名　木月ほほえみ保育園園長　木村広美　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和2年度

《事業所名：木月ほほえみ保育園》

1	**理念・方針 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	（理念）気づきと意欲を大切にします。 （方針）1. 仏教精神に基づく保育　2. 児童の健康増進を第1とする保育　3. 自主性を育てる保育 保育園全体で、年齢やクラスの壁なく、全職員で子どもたち、一時保育利用者と過ごせるように考えている。 利用者のニーズや思い、子どもの様子などは、連絡帳だけではなく、少しでも話をする機会を作るようにしている。 情報提供としては、ホームページ、園だより、連絡帳等を利用している。 地域には、「ほほえみタイム」を毎月1回もうけて、子育て相談や、食事相談、ベビーマッサージなど行っている。また、年1回だが「伝承遊び」として、地域の方々を招待して一緒に遊ぶ機会を設けている。 園見学の際は、理念、保育目標、クラスの様子を話し実際にクラスに見学にいき子どもの様子を見てもらうようにしている。
2	**期待する職員像 （関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	1. 保育園の理念、保育方針、ルールを理解して、子どもに接していく。同様に職員同士も互いに理解受け入れながら組織として活動してほしいことを話している。 2. 保育の質、能力向上については、一人ひとりが意識をして、研修に参加する、また自分の得意とする分野を伸ばすことや園でも還元できるように意識をさせている。 3. クラスリーダー、一時保育担当者、プロジェクトリーダー等役割を与えることにより、より責任感と意識をもって参加できるように、リーダー等に問題点等を投げかけている。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	1. 各職員には、子ども主体を第1と考え、日々の保育を行ってほしい。 2. 主任には、健康面・保健面でのサポート、副主任には、安全管理面について意識して行ってほしい。 3. 次席レベルの職員には、自分の思うこと、他人の意見をまとめる、平等な目を持ちアドバイスを行ってほしい。 4. 若い職員には、色々なアイデアを出し合い、職員間で検討して解決できる力を持てるようになってほしい。

《事業所名：木月ほほえみ保育園》

調査対象	調査開始時点での本園の利用世帯54世帯（68名）を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査項目は共通評価項目に準拠した。回答は、弊社オリジナルWEBベース方式（パソコン・携帯・スマホ）で行いWEB回答できない保護者には紙ベースの回答を、園で回収・弊社宛てに郵送してもらい集計に加えた。

利用者総数	68
利用者家族総数（世帯）	54
共通評価項目による調査対象者数	54
共通評価項目による調査の有効回答者数	43
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	79.6

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では、園に対する満足度は「大変満足」が55．8%、「満足」が44．2%の合計100%であり、保護者から園への信頼は、非常に高い数値となっている。設問別では、「子どもの心身の発達」では100%の利用者が満足であると答えている。また、「子どもの興味や関心」、「提供される食事」、「清潔で整理された空間」、「職員の子どもの気持ちを大切にしている」の個別項目でも95%以上の保護者が満足と回答している。その他の項目も、「非該当・無回答」があったために満足度の数値は下がっているが、不満の数値自体は極めて低い。今後は。この数値に満足することなく、出された個別の意見について原因を分析し、前向きに園運営に努めていただきたい。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	43	0	0	0
「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「先生方やお友達との楽しい活動と美味しい給食のおかげで心身ともに成長しています」、「コロナでお散歩が難しい状況にあっても知恵を絞った室内遊びをしてくださったり、雨の日でも室内で体を動かす遊びを様々に考えてくださるので、お友達とたくさん遊んで楽しく成長できています」、などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	42	1	0	0
「はい」が97．7%、「どちらともいえない」が2．3%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「子供の興味関心にどこまでも応じてくださる先生方のおかげで、親も気付いていなかったようや能力を伸ばしていただきました。 また、興味がないことを無理強いしないので、子供にとって園での生活が楽しい活動に溢れた状態になっています」、などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	42	1	0	0
「はい」が97．7%、「どちらともいえない」が2．3%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「給食の先生方が子どもの成長に合わせて健康的で季節感あふれる食事やおやつを提供してくださっています。家庭ではなかなか真似できません」、「材料や調理過程なども子供に見せたり、説明したりして下さり、子供の色々な気持ちを刺激していただいています。家では食べられないものを保育園で挑戦することもあるようです」、「特にイベント時の特別メニューは工夫を凝らしていただいており、感謝しています」、などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	35	8	0	0
「はい」が81．4%、「どちらともいえない」が18．6%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「先生方が大きな行事で工夫を凝らしてくださっており、感謝しています。各季節のお祭り的なものは、もう少しあったらいいなと思います」、「コロナのせいで今後どうなるかわかりませんが、コロナ前は行事なども色々考えてくださっていました」、「遠方への散歩がまたできるようになると良いです」、などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	0	0	12
「はい」が72．1%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が27．9%という結果だった。自由意見では、「親子ともに大変助かっています」、「私が急に具合が悪くなり会社帰りに病院にいく必要が出た時、電話で伝えると「時間の心配はしないで、しっかり診てもらってきてください」と言っていただけてとても助かりました。子どもは他の学年のお友達と遊んでもらい、おやつも出してもらえて楽しく過ごしていました」、などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	36	6	1	0
「はい」が83．7%、「どちらともいえない」が14．0%、「いいえ」が2．3%という結果だった。自由意見では、「特に問題という程ではないが、二階の部屋の施錠について、保護者含めて徹底した方が良いと思う」、などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	3	0	3
「はい」が86．0%、「どちらともいえない」が7．0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が7．0%という結果だった。自由意見では、「年度の初めに、1年の行事のスケジュールを出してくださるので、仕事を調整しやすく助かっています」、「昨年度末からコロナ対策として保護者参加の行事はキャンセルとなったためどちらとも言えないと回答しました」、などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	38	4	0	1
「はい」が88．4%、「どちらともいえない」が9．3%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が2．3%という結果だった。自由意見では、「担任ではない先生でも、日々の送迎時に短時間でも日ごろの様子を教えてくれるのが嬉しい」、「特に0歳の時は食事の進め方や離乳のことなどいろいろ相談に乗ってもらった」、「ちょっと気になった時に担任の先生と話したり、保育アプリでメッセージを送って返信をもらったりできて安心して相談ができています。」、などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	42	1	0	0
「はい」が97．7%、「どちらともいえない」が2．3%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「普段から園内は清潔を保っていますが、コロナ後はさらに気を付けてくださっています」、「玄関の砂だけ気になります」、「二階のトイレの前で遊ぶのが衛生的なのか気になりました」、などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	39	4	0	0
「はい」が90．7%、「どちらともいえない」が9．3 %、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「保育の邪魔にならなければ、色んな服装や髪形の先生がいても問題ないと思います。言葉遣いや態度もその先生の個性であり、子供が傷ついたり悪影響を及ぼさない限りは自由でいいと思います。社会に出れば色々な人がいますので」、などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	3	0	3
「はい」が86. 0%、「どちらともいえない」が7. 0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が7. 0%という結果だった。自由意見では、「虫刺されなどによる腫れでも丁寧に説明してくれる」、「おおむね良く見て対処してくださっていると思います」、などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	4	0	8
「はい」が72. 1%、「どちらともいえない」が9. 3%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が18. 6%という結果だった。自由意見では、「きちんと何があったか説明してくださる場合がほとんどです」、「まだ入園して間もないのでそういう機会がないですが、きちんとされると確信しています」、などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	1	0	1
「はい」が96. 4%、「どちらともいえない」が2. 3%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が2. 3%という結果だった。自由意見では、「サバサバした先生、じっくり向き合ってくれる先生、いろいろですが、概ね子どもの気持ちを大切にしてくれていると思います」、「大変お世話になっております。いつもありがとうございます」、などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	34	3	0	6
「はい」が79. 0%、「どちらともいえない」が7. 0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が14. 0%という結果だった。自由意見は、近項目については特に出されなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	8	0	0
「はい」が81. 4%、「どちらともいえない」が18. 6%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「チーム保育を志向されているからこそと思いますが、他の固い担任制をとっている保育園と比べると、親のお迎え時に特定の職員が必ず対応するということがない点が、一時保育を利用される方には、少し物足りないかもしれません。先生方と信頼関係の出来上がっている長期利用の保護者は、そのような点よりもチーム保育のメリットを、より感じています」、などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	34	3	0	6
「はい」が79. 0%、「どちらともいえない」が7. 0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が14. 0%という結果だった。自由意見では、「要望をお伝えすると真摯に対応いただいています」、「たまに先生によって対応が変わることもありますが、概ねきちんと対応してくれています」、「最初の年は持っていった物がなくなることがよくあったが、今はほとんど不満はない」、などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	14	10	4	15
「はい」が32. 6%、「どちらともいえない」が23. 3%、「いいえ」が9. 3%、「非該当・無回答」が34. 8%という結果だった。自由意見では、「入園時にあった気もするが良く覚えていない」、「まだ入園して間もないのでそういう機会がないため非該当にしました」、などの意見があった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

カテゴリー1の講評

園長が現場に問いかけ答える「対話」を通して、園の理念の浸透に努めている

本園は今年度で開園3年目。新任の園長の下、一丸となって自園の保育を組み立てているところだ。新しい職員も多い中で、園は理念の浸透・個々の理解の深化がまだ不十分だと感じている。そこで園長が工夫しているのが、現場との対話による理念の浸透だ。各クラスでどんなことをしているか、計画しているか、丁寧に問いかけ、それに対する答えに重ねる形で園の理念を語り、クラスからの質問や意見に関しては大きな理念の面から答える。職員に対しても「気づきと意欲を大切に」という理念に基づいて接することで、理念の浸透を図っている。

面談を通して職員の意向を把握しながら、課題を出し、改善につなげている

意思決定や保育運営が明快にかつスムーズに進むように、園長・主任・副主任・クラスリーダーという形で組織的な役割を定めている。主任・副主任は現場に入りながら全体の保育を見、クラスリーダーは現場をまとめながら現場の意見を上にあげる役割だという。いわば、全員がプレーしながら考える形。この役割分担がしっかり機能していけば、いい意味で民主的な風土が確立され、園を動かす強力なエンジンになるだろう。若さと勢いを大切にしながら、いい形で職員集団のダイナミズムを発展させていってほしい。

現場からの声を掬い上げ、積極的に取り入れながら保育の形をつくり出している

行事についても、現場からの声を大切にしながら作り上げていっている。それぞれの行事について、どんなふうにやりたいのか、どんな活動をしたいのか、各クラスから意見を出させ、それを基に形づくってきたという。今年度はお店屋さんごっこから発展した夏祭りも企画した。登園自粛の期間には、おすすめの歌や絵本をリモートで園児の家庭に届ける企画も実現した。園だよりも地域の掲示板に出し、地域への発信も始めた。こうした取り組みはすべて現場からの声を具現化したもの。まさに園の理念「気づきと意欲を大切に」の実践である。

2	カテゴリー2
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2（2-2）		
実践的な計画策定に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

面談を通して職員の意向を把握しながら課題を出し、改善につなげている

定期的な職員面談を通して、職員の意向の把握や課題の抽出、改善への意識づけを行っている。年度末の職員面談では、職員から1年の反省と課題を出させ、次年度にどう改善するかを話し合う。今年度はその面談を踏まえて始まっているが、7月には自己評価、8月には面談と、年度途中にも中間の振り返りを行うという。中間・期末の2回、こまめに振り返り課題を見つけていくこの方法は、進化・成長中の本園の実情に合っており、まさに気づきを大切にした取り組みといえそうだ。

地域のニーズを把握し、それに応える形で一時保育を充実させている

本園は都心に近く住環境も良好な人気の住宅地に立地。地域は今まさに発展中で、子育て家庭も増加している状況だ。そうした中、地域にはさまざまな形の家庭があり、一時保育のニーズも高いという。そうした地域ニーズを把握した上で本園が力を入れているのが一時保育。在地域の子育て家庭への支援という意味はもちろん、「どの子とも仲良くし、一人ひとりにあった対応」という園の保育方針に基づきつつ、在園の子どもにもプラスになればという願いから、園の子と融合させる形で、充実した一時保育を行っている。

園の目指す子ども像を具体的な計画に落とし込み、園の土台をつくっていってほしい

新しい園舎内、保育室はきれいにゾーニングされ、保育環境が構成されている。玩具も揃えられ、子どもの自主性を育てるという保育方針もしっかりと実践されていると感じられる。園の長期計画にあたるものは、園が理念とともに示す「子ども像」だが、これからは、その子ども像を、わかりやすく具体的に保育計画に落とし込んでいくことも必要だろう。いいスタートをきった今だからこそ、現場の声を大切にしながら具体的な中期計画を立て、今後のより確実な保育実践、子どもの育ちにつなげてほしい。

3	カテゴリー3
	経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当

サブカテゴリー2（3-2）		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3（3-3）		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

自己評価に倫理・規範の遵守や人権に関する項を設け、個々の意識を高めている

保育に携わる者としての規範・倫理の遵守、人権を守る取り組みについては、職員に対して園長が話をしたうえで、各人が守るべきものは何か、自己評価に項目を立て、自らチェックできるようにしている。苦情解決については、解決窓口・解決責任者を定め保護者に明示している他、市の保育会との連携で、第三者による苦情受付体制を整え、保護者に対して周知している。

基本的な家庭との関わりを通して、虐待の防止に努めている

虐待防止については、市の研修に職員を参加させ学ぶと同時に、子どもの観察や保護者への声かけといった日常的な家庭との関わりを通して防止に努めている。特に留意しているのが、保護者との関係づくり。問題が予想されるケースでは、保護者にこまめに声をかけ、まずは良好な信頼関係をつくることから始めていくという。自治体の冊子も活用し、保護者の啓発も行っている。

地域との関係づくりを丁寧に進め、地域との良好な関係を作り始めている

本園の開園前、地域からの反対の声があったという。しかし現在、子育て家庭を園に招いてくつろぎながら語り合う「ほほえみタイム」、地域の祭りへの園児の参加など、園はできる範囲での地域への園の開放、地域への参加を通して地域との関係を作り始めている。その結果園は、地域との関係は良化してきているという手ごたえを感じている。こうした取り組みの継続が、地域とのつながりを太くし、やがては強い絆になっていくだろう。

カテゴリー4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

全員参加のプロジェクトにより、全職員が意欲的にリスクマネジメントに取り組んでいる

全職員が参加する防災／保健の2つのプロジェクトを立ち上げ、リスクマネジメントに取り組んでいる。防災プロジェクトのテーマは災害・避難・不審者対策などを主にマニュアルを作成・整備。保健プロジェクトは感染症・救急対策を主に具体的な対応や保護者連絡の方法などこまやかに検討している。これらのプロジェクトは全員参加のため、一人ひとりが自分の問題として、園の安全管理について自主的に考えられるようになった。個々の意識向上が、日々の安全維持・危機管理を確かなものにしてきている。

現場の気づきをすぐに取り上げるシステムで、日々の安全を維持している

玄関の自動ドア、門から園に入る動線、園庭で遊んでいる際の（子どもの年齢に応じた）動線の整理など、毎日の園生活の当たり前の場面に危険が潜んでいることは意外と多い。本園が取り組んでいるのは、こうした危険に対する迅速な対応。危険に気づいたらヒヤリハットファイルに記録、午前に気づいたことには昼にリーダーが集まり速攻で対策を立てることもあるという。気づきをそのままにせず、すぐに生かし改善する。生きたリスクマネジメントが行われている。

園児管理システム・園内PCへのアクセス権限を厳重に定め、情報管理を行っている

本園では、園児情報の一元管理と発信を、専用のシステムを用いて行っている。そこで一番気をつけているのが、職員のアクセス権限の設定だという。園児管理のシステムにはすべての情報が集約されているため、万が一にも、不適切な漏洩がないように注意が必要だ。そのため、園長・主任・副主任の階層順にアクセス権限を定め、情報管理を厳重に行っている。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー5の講評

リーダーが現場に働きかけ、職員個々の意欲や発想を引き出し伸ばしている

楽しく保育ができている様子の各クラスのチームに対して、もう一段ギアを上げられないだろうかと考え園が打ち出した布陣が、主任・副主任を乳児・幼児クラスのファシリテーターとしてがっちりと現場に入れること。保育のアイデア・きっかけをどんどん示しながら現場からの声を引き出す狙いだ。アドバイザー的な関わりではなく、チーム内の引き出し役としての濃い関わり。一人ひとりが保育の楽しさを実感することで、チームは活性化し共感も生まれる。その結果、現場の保育者がかなり力をつけ、積極的な姿勢で企画を出せるようになってきたという。

日常的に保育の意味を問う会話をし、子どもを見る目を育て、チーム力を上げている

保育の中の楽しさを追求していく際に、必ずその前提になるのが、今目の前にいる一人ひとりの子どもをどう見ているかという子ども把握、今やっていることはどんな意味があるのかと問い返す保育観の共有だ。そのために必要なのは、何よりもチーム内の全員で話し合い。職員間で日常的に保育の意味を問う対話を重視し励行することで、子ども把握・保育観の共有も進んできたという。こうした個々の力の向上は即、チーム力の向上につながる。この力が今後どんな効果をもたらすか、期待したい。

意識的に働きやすい風土をつくりだし、モチベーションの維持、職員定着につなげている

意欲の向上・職員定着に不可欠なのが、働きやすさ。働きやすい風土づくりのために園が強く意識しているのは、仕事のわかりやすさ、残業の少なさ、休憩・休暇のとりやすさだという。とくに休憩時間については、必ずクラスを抜けて事務室やカフェスペースでまとまった時間をとるよう徹底し習慣づけている。クラスを抜ける人がいる分、残ったチームは工夫して仕事を回さなければならない。しっかり休憩をとることは、チームのこうしたスキルも育む。メリハリの効いた勤務をすることにより、やりがい・やる気を損なうことなく働ける環境ができている。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

開園以来、園が感じていたのは、自園の保育理念の自らの保育への落とし込み、そして自分たちの保育の保護者への発信が不足しているのではないかという懸念だった。そこで企画されたのが、保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をテーマにした共同研究だ。全職員をグループ分けし、グループごとに10の姿（①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量・図形、文字等への関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現）からテーマを選び、それにつながる子どもの姿を日常の保育の中から拾い上げた。そしてそれに対する検証を自らの言葉とシーンを捉えた写真で発表した。長い期間をかけて取り組んだこの研究は、今、保育者の実感のこもったコメントと子どものありのままの姿を捉えた写真による素晴らしい掲示物となり、園のエントランスに掲示されている。保護者にもその気持ちは伝わり、よく見てもらえているという。学びと発信の両方を実現した、非常に意義深い取り組みである。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

自園の理念の保育への落とし込み、理念の浸透という狙いを、保育指針という大きな原則に紐づけて、非常に普遍性と持続性の高い学びとしたこと、そしてその学びを調理も含めた全員参加のグルーピングで行ったことを評価したい。「気づきと意欲を大切に」という園の理念は、主眼を自立心においてはいるが、それは10の姿のすべてに通底するものだ。そうした気づきがあれば、おのずと日常の保育の中のすべてのシーンが10の姿につながるということも見えてくる。大きく目を開いて保育を見つめなおし、それから一つひとつのものを拾っていくグループワーク。それは、職員間の職種の隔たりや受け持つ子どもの年齢の違いによるチーム間の意識の隔たりを埋めながら個々の意識を高め、グループ内に深く対話的な学びをもたらしたに違いない。この、みんなで掘り下げ、みんなで語り合うという学びのスタイルに対して園は大きな手ごたえを感じている。今後の継続とさらなる発展が楽しみである。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

「その子一人一人を丸ごと受け入れ、大切に接するということ…」。これは園が示す「保育において大切にしてもらいたいこと」の一節だ。こうした姿勢を実現するために園が行ったことのひとつが、ケース会議の改善だった。気になる子を見るためのケース会議では、どうしても、「気になること」「問題のある子」という形で話し合ってしまうことが多いことに着目し、園は、その子のいいところ、ストレングス（長所）は何か、どんなところがよくて、どう伸ばしていけそうなのかに着目することを考えた。いい部分に着目しそれを出し合うことで、「〇〇ができません」「〇〇してしまいます」という負の感覚から脱し、その子を丸ごと見直すことができるのではないかという発想だ。そこで生まれたのが、「元気のでるカンファレンス」。それを、クラスの垣根をこえて園全体で行うことで、担任の負担感も減り、意識の共有もでき、具体的な対策も立てられ、結果的にその子に対していい取り組みができたという。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目２で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

この活動で特に注目したいのは、ともすれば負担に感じてしまう懸念もある事象に対して、自園の理念をしっかりと踏まえながら、方法を工夫して全員で取り組み、組織全体の力づくりに変えるポジティブな取り組みとして実践したこと。チーム保育で重要なのは、チームの中のしっかりした連携とチーム間の温度差のない連携だが、この取り組みは、各チームの協力体制と、協働作業による意識の共有、全園の連携による具体的な保育方法の改善をもたらした。言葉がうまく伝わらない子には絵カードで伝える、落ち着かない場合には朝の会の立ち位置を工夫するなど、さまざまな視点から出たアイデアを園全体で実行し、継続的に実行～検証を繰り返していったという。こうした具体的で目に見える取り組みは、子どもにとってはもちろん、保育者にとっても必ず大きな力になるだろう。ひとつのきっかけを、全員の力を合わせた取り組みに発展させ、自らの力を育んでいく元気な組織力。今後のさらなる発展に期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
1	サブカテゴリー1
	サービス情報の提供　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している　　評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

園見学やホームページの活用により、地域に向けて必要な情報を発信している

入園希望の保護者には、事前に電話予約をしてもらい、毎週火、水、木の15時から1日3組を上限に、園内見学を行っている。見学者には（園のHPへつながるQRコード付きの）園の案内を配布した上で、園の基本方針を説明している。必ず園見学をした上で入園してもらうようにしている。また園は、子育て支援活動のお知らせや一時保育の利用についての情報を発信するために、ホームページを効果的に活用している。特に一時保育については、利用年齢や利用要件、料金、時間帯など詳細に情報を発信しており、地域に向けての貴重な情報提供になっている。

保育者によるブログの発信は、保育の中味を知るための重要な情報源になっている

園のホームページ内における保育園のブログ「そこはっ！ほほえみっ子」では、毎月保育者が子どもの具体的な姿を写真とともに情報発信をしている。このブログの評価できる点は、子どもの遊びや生活の場面を具体的に切り取って情報発信している点である。子どもがどんなふうに問題を解決したのか、どんなふうに苦手なものを克服したかなど、子どもの具体的な姿を通して保育の価値を伝えている。ブログの発信は、園がどんな保育を実現し、何を大切にし何を目指しているのかなど、保育の中味を知るための重要な情報源になっている。

行政や保育団体のホームページに園の情報を掲載し、幅広い情報提供に努めている

園の基本情報は川崎市、川崎市保育会のホームページから入手できるよう情報提供をしている。川崎市のホームページでは、施設の所在地のほか、交通手段、開園時間、施設の構造規模、敷地面積・延べ床面積、保育方針、年齢別による定員、職員数、保育の特徴が紹介されている。また川崎市が発行している冊子にも情報提供をしており、インターネットだけでなく様々な媒体で園の情報を入手できるようになっている。川崎市保育会のホームページの情報には園のホームページのリンクが貼られており、さらに詳しい情報を得やすい状態になっている。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園時に園の大事にする視点を説明することを通して、保護者の不安の解消に努めている

入園前に、原則保護者に園見学をしてもらい、その際に主任又は副主任が園の基本方針や保育内容について説明する。入園決定後は指定の書類に、保護者の就労状況、既往歴や予防接種の状況、食事や発達の状況、アレルギーの有無などを保護者に記入してもらった上で個別に面接を行い、重要事項説明書を確認する。この時子どもの写真の取り扱いに関する誓約書も取り交わしている。なお毎年4月にはクラスごとに保護者懇談会を実施し、その際に園の保育方針や園生活で大切にすることなどを文書でも配布し、入園後の保育が円滑に行えるように配慮している。

入園時の不安やストレスを軽減するために、子どもに合わせた慣れ保育を行っている

入園した子どもの不安やストレスが軽減されるよう、慣れ保育を行っている。入園後保護者の仕事の復帰状況を個々に勘案し、慣れ保育の期間を決めている。0歳児・1歳児クラスはおよそ1週間の期間を設けているが、子どもの喫食の状況等を確認しながら、保護者に柔軟に対応してもらえるようお願いしている。0歳児クラスは離乳食のため、最初の食事は保護者と一緒に食べてもらっている。子どもと同じように保護者も不安を抱えているため、慣れ保育を通して保護者にも安心して園に預けてもらえるような関わりを意識している。

子どもの成長を継続的に見ていくために、引き続き小学校との連携の強化に期待したい

年度末に保育所児童保育要録を各小学校へ送付している。ただしほとんどの子どもが同じ小学校へ入学予定であることから、担任が各子どもの生活・発達の状況を説明するために、当該小学校へ要録を直接持参している。一方小学校の教員も、就学前の園生活の様子を見に来て、各子どもの状況を把握するために訪問に来ている。直接的な交流が生まれている現状だ。子どもの成長を継続的に見ていくために、引き続き保護者との信頼関係の構築に努めつつ、今後はより一層小学校との連携の強化に期待したい。

3	サブカテゴリー3		
	個別状況に応じた支援方針作成・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(○○○)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(○○○○○)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(○○)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(○○)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

ICTを利用した家庭との連携がタイムリーに行われ、個別の支援に役立てられている

保育ソフトを使い、全体へのお知らせや個別連絡がタイムリーに配信されている。特に個別の連絡に関しては、以前は電話だと繋がりにくく連絡が取れない場合もあったが、携帯で見ることができるので保護者からの返答も早くなった。連絡帳機能も使用しているが、保護者からの記入の際も写真添付ができる為、休日などの様子を写真で知らせてくれる家庭もあるという。休みの日の子どもの生活状況も把握でき、その子どもに対して園と家庭、双方からの情報がお互いに見やすくなるので、保育者が個別の課題について検討する際にも役立っている。

指導計画に子どもを合わせるのではなく、子どもの姿を大切にし保育をしている

全体的な計画から年間指導計画、月案、週案を立てているが、一番大事なのは実際の子どもの姿だと捉え、子どもの姿から実際の計画を変更し、変更した場合はその点を記録に残すことで次年計画へとつなげている。また保育所保育指針にある幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿についてもそれが到達目標ではなく、実際に見られる子どもの姿から捉えるポイントとして姉妹園の職員と共に研修を重ね、子どもの姿を写真で表し、保育者の思いを添えポスターにした。子どもの主体的に「やりたい」と思う気持ちづくりを大切にしていることがよくわかる。

全園児を全職員で見ていくという園の方針が実践できる仕組みができあがってきている

各クラスの打ち合わせで日々の振り返りや次月の計画、個別の配慮事項など話している。その後のクラス会議には園長・主任・副主任が参加しているので、主任・副主任が園全体の事を把握できており、各クラスを結び付ける役割を果たしている。その他にも特に全体で把握していたいことは「読んでちょうだいノート」というノートに記入し、全体への周知を図っている。こうした取り組みにより、職員は他のクラスへの関心も高まり、園が大事にしていこうとしている「全園児を全職員で見ていく」という方針を実現するための仕組みができあがってきている。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

乳児期から子どものプライバシー保護に配慮した保育を行っている

乳児のおむつ替えの際には、ついたてを用意し、周囲から見えないよう配慮されている。保育者は乳児期から一人ひとりのプライバシー保護について考えており、職員の意識も高い。年齢が上がっても、シャワーの際には、簾をかけ近隣からも見られないよう配慮、着替えは外部から見られない室内で行うようしっかり配慮されている。更に、保護者にも呼びかけ、理解をもらいながら、シャワー用のタオルは「ラップ式」としている。園児自身も自分のプライバシー保護について保育者から話を聞いており、自らの身を守るという意味を考えるきっかけとなっている。

子どもの意思を尊重することで、子どもの自己肯定感が育まれていくよう配慮している

子どもの思いを尊重し実現しようとする園の文化が、開園3年目にして根付こうとしている。例えば子どもからダンス遊びをしたいという意思表示があれば、それが楽しくできるように保育者も一緒になって考え、楽器を入れてもっと遊びが広がるような工夫をしている。また逆にほとんどの子が散歩に行く中でどうしても散歩に行きたがらない子どもに対して、無理に連れて行こうとするのではなく、園でお留守番をお願いすることもある。一人ひとりの子どもが、主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくよう配慮している。

子どもを一人の権利主体として尊重する保育をより一層実現していくことを期待したい

周囲から見えにくい場所でおむつ替えや着替えなどを行っており、子どもの人権において最低限配慮しなくてはならないことについては、注意を払っている。ただ保育者の中には子どもに対して呼び捨てをしたり、子どもの意思を確認する前に抱っこしたりする姿が見られた。今後、子どもを一人の権利主体として尊重する保育をより一層実現していくために、保育者の言動や身振り等の日々の積み重ねこそが子どもに大きな影響を与えることを園全体で改めて認識し、保育の質の向上に努めることを期待したい。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

各部門ごとに担当者を配置して、園として適宜対応できる仕組みをつくっている

業務の中で必要な部分について、それぞれの手順を明確にしている。食物アレルギーの対応、災害時対応、てんかん発作の対応、虐待の発見とその対応などについて整理してまとめてある。また安全管理マニュアルを使用しながら子どもの事故報告会を行い、適宜再発防止策を講じている。今年度は看護師がいない中で保健プロジェクトを立ち上げ、毎月のテーマに沿って幼児クラスへの啓発活動を行っている。マニュアル等の不備や見直しなど課題はあるものの、各部門ごとに担当者を配置して、園として適宜対応できる仕組みをつくっている。

各種の計画書・報告書を職員間で共有する中で、子どもの安全性を守ろうとしている

「ヒヤリハット報告書」「事故報告書」などを活用しながら、保育者が子どもの安全性に配慮した保育を実践しようとしている。事故の原因や再発防止策についても記録し、職員間で共有している。また防災プロジェクトを立ち上げ、毎月火災・地震に備えて、様々なシナリオを想定した避難訓練を計画・実施し、計画の中には水害訓練や不審者対応訓練も含まれている。わからないことが起きた場合には、副主任・主任・園長など経営層の職員を中心に確認を行うことができるように職員体制を組んでいる。

現在の役割分担を機能させ、課題や改善点を組織的に解決していってほしい

業務分担表において、職員の役割が明示されている。園長、主任、副主任、専門分野リーダー、クラスリーダー、フリーなど、それぞれの業務内容が記載されており、また各職員に対して自己評価表をもとにした面接も行っている。今後、より園の理念を実現していくために求められるのは、保育環境や保育の安全面、子どもへの関わり方など、課題や改善点を共有し、解決していく仕組みだろう。それぞれの職員が具体的にどこに力点をおいて業務に当たるのかを明瞭にしながら、課題に対して組織的な解決が行われていくことを期待したい。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35／35

1 評価項目1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

「仏教精神に基づく保育」のもと、一人ひとりを大事にした保育環境が整えられている

園の保育方針の一つに「仏教保育に基づく保育」があげられており、「平等」と「平和」が大事にされ、一人ひとりにあった対応が心がけられている。職員は子どもによって「平等」の内容が変わってくることを理解し、その子にあった対応を心掛けている。自由画などは、自分が本当に表現したいことが表現できるよう少人数で行ったり、「好きな人」の描画や「○△□」のぬり絵など、月ごとの制作を通して、それぞれの個性や表現をお互いに認め合うことができる良好な環境を作っている。

子ども同士のけんかを、自分の気持ち・相手の気持ちを考えるための機会としている

子ども同士、お互いの気持ちがぶつかりけんかになることもある。しかし園は、けんかを重ね相手の気持ち知っていく経験が大事だと考え、全てを大人が解決してしまうのではなく、できるだけ子ども同士で伝え合い、お互いを理解しながら解決できるよう配慮している。子どもたちは保育者を信頼し、けんかで困ったときには保育者に伝えに来る。その際保育者は、相手の気持ちや自分の気持ちに気付かせ、相手との対応方法を丁寧に伝えている。その結果、手が出てしまうことは減ってきているという。

近隣小学校との交流を計画し、円滑な接続を心掛けている

新型コロナウィルス対策により困難な状況も生じているが、本園の卒園児の多くが入学する近隣の小学校との交流を計画し、円滑な接続を心掛けてきた。具体的には、一緒に給食を食べたり、ランドセルを背負わせてもらったりというような、実際に体験させてもらいながらの交流だ。園児にとっては小学生とのつながりができ、小学校にとっては、次年度に入学する子どもの様子がわかるという、双方にとってメリットがある。園児たちは実際に体験することで小学校へのあこがれが増し、卒園・新入学の不安解消にもつながっている。

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

「元気かなチェック」により子どもたちの体調を家庭と園で共有し個別配慮がされている

登園時、昼、午睡後、夕方の4回「元気かなチェック」を行っている。子どもの顔色はどうか、身体や手に傷や湿疹はないか、声の様子はどうか、体調に変化がないかなどを確認し、視診表に記入している。チェックをすることで一人ひとりの生活リズムや体調を家庭と園とで共有でき、園生活の中で個別に配慮した保育が行われている。こうした家庭との共有は一時保育を利用している子どもに対しても同様に行われている。保育者はその子の好きな遊びや、寝る時の癖なども把握して保育を行い、一時保育の子どものストレスを軽減できるようにしている。

子どものペースを見守りながら、基本的な生活習慣が身につくようにしている

基本的な生活習慣は、保育者が一方的に指導するのではなく、例えば、ズボンが着脱しやすいように椅子を用意する、ごっこ遊びの中にスカートや帽子を用意し、遊びながら着脱の練習ができるようするなど、自分でできる環境を整えたり、遊びの中で身につけられるように工夫している。また、子どもが自分でやろうとしている時には見守り、できない所をやって欲しいと言ってきた時には手伝う。基本的な生活習慣は、子どもをせかしても、やってあげすぎても身につかないということを職員は共通認識しているので、子どものペースを待つことができている。

栄養士と保育者が連携し、年間を通して食育活動を計画している

栄養士がサンマをさばくところを子どもたちに見せてくれたり、キュウリやナス、インゲンなど子どもたちが育てた野菜を収穫後調理してくれたりなど、栄養士と保育者のよい連携で充実した食育が行われている。今年の冬から育てている玉ねぎも収穫し、よく見えるよう玄関に吊るして乾燥させるなど、子どもが自ら興味を持てるような環境を常に考えている。年長になると調理会があり、メニューも子どもたちが決め、買い物から調理まで行う。自分たちが計画し実践するので達成感も大きいという。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

0歳児と1歳児がお互いに関わりながら過ごせる理想的な環境になっている

0歳児と1歳児の部屋は、発達によるグループ分けがされている環境であり、0歳児が1歳児の遊びをじっくりと見ることができるようになっている。近くで少し上の発達の子がいる事で0歳児は模倣を行い、その模倣が探求心や意欲、運動発達へとつながっている。更に、興味がある時にはお互いに行き来ができるようになっているので、一緒に関わる時間を持つことができる。子ども同士が顔と顔を見合って、相手の行動を見て、共感したり模倣することで、知識が伝授されていく。こうした関わりができる本園の環境は、まさに理想的なこども集団の場である。

子どもが豊かに表現できるような手作り玩具や素材を用意している

遊びの中で子どもたちが豊かに表現できるように「マルチパーツ」と名付けた職員の手作り玩具を用意したり、自由制作のための廃材が必要な際には自由に使えるようになっている。特にマルチパーツは、牛乳パックを使ってしっかり作られており、長さや形も様々なものが用意されている。子どもたちは電車に見立てたり、積み木のように積み上げたりその時々でいろいろ見立てながら遊んでいる。保育者が、子ども同士で遊びが広げられるよう形や長さにこだわりながら作っているので、市販の玩具とは違った、子どもの発想がより表現できるものとなっている。

近隣の自然との関わりを大切にし、命について考える経験ができている

近くの川でアメンボや鯉を探す、毎年季節になるとやってくる燕との出会い、アジサイや山の紅葉…。園はこうした近隣の自然との関わりを大切にしている。生き物に興味を持った子が青虫を捕まえてきたり、カマキリやカメムシを虫かごに入れ観察したりしているが、虫との関わりの中では、どうしても「死」の場面に出会うことがある。そんな時はその都度、自分たちの対応は良かったのか、死んだ後はどうしてあげることが望ましいのかをみんなで考えるのだという。虫の死が、命についてみんなで考える経験として生かされている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

日頃の活動を行事につなげ、「一緒にやると楽しい！」という協同性を育んでいる

「行事のために練習を重ねる」という方法ではなく、日ごろからそれぞれの発達に合わせた環境を用意し、そこで生まれる子どもたちの自主的な遊びを、運動会や発表会につなげていくようにしている。日常的に保育者は、みんなで一緒に行う楽しさを味わえるような活動を考えており、遊びを通して共同性が育まれるようにしている。その中で、子どもたちがやりたいこと、興味を持っていることに対して、今よりも少し頑張ったらできるレベルの内容を意図的に組み込む工夫をし、子どもたち自身がやり遂げた際に達成感や喜びを味わえるようにしている。

行事においても自分で「選択」をすることで、責任感を持って参加できるようにしている

保育の方法の一つとして、乳児期からの「選択」を取り入れているが、幼児クラスの行事においては、順序制選択・習熟度別選択を取り入れ、いくつかの分野を順番にまんべんなく体験したり、自分の能力に合ったことを選んだり、目標に向かって協働していこうとすることができる環境を作っている。例えば、幼児クラスの劇遊びでは、3つのお話を順序制選択でそれぞれ体験した後、自分たちで一つに決め、役割分担しながら発表会に向けて仕上げていく。この自己選択が、自分の選んだことへの責任感を生み、自立・自律に向かった主体的な学びとなっている。

電子連絡帳を活用し、行事の取り組みを写真や動画を用いながら保護者に伝えている

日常的に電子連絡帳が活用されているが、行事の取り組みについても、毎月のクラスだよりの中に発表までの様子を写真で紹介するなど、保護者にわかりやすく伝えられている。クラスだより以外にも日々の様子は写真で伝えているので、行事は当日の出来不出来ではなく、そのプロセスが大事だということも保護者へ浸透してきている。当日参加できない保護者には、事前の様子を動画で撮り、楽しんでいる姿を見てもらうこともあるという。当日までの長いプロセスをしっかり伝えることで保護者の理解を得、行事を確かなものにしている。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

保育時間の長い日々の園生活が安心できる空間となるような環境が作られている

昼間でも夕方でも、体調が悪いわけではなく疲れが見られる子や眠い子がいる場合、横になって休める場所がある。一人ひとりが尊重されているため、その子の欲求が満たされる（何もしない）環境も用意されているのだ。また、延長保育の時間からは、できるだけ小さい部屋に移動し落ち着いた空間で安心して過ごせるようにしている。こうした、子どもたちの気持ちに寄り添った環境が用意されていることはとても大事なこと。「疲れている」ということも自己表現でき、その欲求が満たされる空間があることで、子どもたちは安心して園生活がおくれるのである。

保育者の良好な連携や配慮が、朝夕の保育でも子どもたちの安心感を生んでいる

全園児の事をお互いに理解し、情報共有しようという意識を徹底し、保育者は担任しているクラスの子以外の園児とも良好な関係を作れている。朝の保育や延長保育の時間帯、子どもたちにとって保育者の存在は大きく、いつでも自分の存在を受け止めてくれるという安心感の中でこそ、くつろいだ時間を過ごすことができる。保育者同士の良好な連携は子どもたちの安心感を生む。夕方、人数が減ってくる中で寂しさもあるだろうと、特別に事務所にある玩具を使えるようにするなど、保育者は朝夕の時間を、特別な時間として過ごせるような配慮もしている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

楽しい食事を目標に、それぞれにあった盛り付けを行い、食への意欲につなげている

食事をする場所をレストランと名付け、基本的な一定量と呼ばれる計算上の量を食べさせることを目的とせず、一人ひとりが楽しいと感じられる食事を目標にしている。0、1歳児は、保育者が個々の食べられる量を把握しているので、その子に合った盛り付けを行い、2歳児は、子どもが保育者に「減らして欲しい」など意思を伝え減らしてもらう。また、3歳児以上はバイキング方式を取っているので、自分の食べられる量を伝え盛り付けてもらう。自分で決めた量なので食べきることができ、満足感や達成感を味わうことが次の食への楽しみにつながっている。

行事にちなんだ盛り付けや目の前でサンマを捌くなど、五感を使った食育を行っている

行事の際には、日常と少し違った行事食を取り入れ、子どもたちが味覚で「おいしい」と感じるという目的だけではなく、ケーキの色を干支にちなんだ色にするなど行事に因んだ盛り付や仕上げを工夫し、視覚でも楽しめるようにしている。また、栄養士と保育者が連携し、子どもたちの目の前でサンマを捌く機会を設け、魚の形やにおい、捌かれていく様子を見せる。家庭でも魚を捌く場面を見る機会は減ってきているので、貴重な体験となっている。味覚だけでなく、こうした五感を使った食育は、乳幼児期において重要な体験と言える。

誤食がないように配慮しながら、「一緒に食べている」と思えるよう工夫している

アレルギー児の保護者とは個別に面談を行い、アレルギー食について説明している。実際に食事をする際は、アレルギー児専用のテーブルを用意し、保育者が除去表を見てチェック、保育者と給食担当でチェック、クラスに運んでから担任同士でチェックと、段階的にチェックして提供している。このように誤食防止に万全を期す一方で、園は「他の友だちと一緒に食べているという実感を得られるような配慮も必要だ」と考えており、症状も軽く、自分のアレルギーをしっかり理解している幼児クラスの子に対しては、通常食の子と一緒に食事をとらせている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

保健プロジェクトを通して、子ども自身の健康意識を高めようとしている

今年度、園で保健プロジェクトを立ち上げ、月ごとにテーマを決めて、子ども（幼児）が自分の健康や身体の仕組みなどを知る機会を定期的につくっている。例えば月ごとに、4月「手洗い・うがい」、5月「トイレの使い方」、6月「歯磨き」、7月「衣類の調節」、8月「水分補給」、9月「便について」、10月「目の愛護デー」、11月「鼻水のかみ方」、12月「咳・くしゃみのエチケット」と、こんな感じだ。園は看護師がいない中で、子どもたちに対して積極的に保健指導を行うことによって、一人ひとりの健康への意識を高めようとしている。

子どもの興味にそって体を動かす遊びの積み重ねが、ケガや事故の予防につながっている

乳児クラスの頃から室内で自由に体を動かす遊びを積極的に取り入れ、例えば登る、くぐる、四つん這いになって渡るなど、粗大運動遊びを十分にできるように配慮している。幼児クラスでも、近くの公園に散歩に行ったりホールで体を動かしたりすることを通して、ケガを予防する身のこなし方を学べるよう工夫している。保育者主導で子どもに活動させるのではなく、子どもが興味のあるものを選んで活動し、子どもに一日の見通しをもって生活することから結果的にケガや事故は少なくなる。ヒヤリハットや事故についても書面で職員と周知を図っている。

午睡チェックを行うことを通して、乳幼児突然死症候群の予防に努めている

乳幼児突然死症候群を防ぐためにチェック表を使用して直接確認している。0歳児・1歳児クラスはそれぞれ5分ごと、15分ごとに確認し、一人ひとりチェック表に記入している。記入の際には子どもの顔の向きもチェックし、安全を確認している。2歳児クラス以上は30分ごとに目視で確認を行っている。このため保育室内の照度を、子どもの寝ている姿が見える明るさを保つように配慮している。なお園は、保護者にも乳幼児突然死症候群のリスクに関して説明を行っており、あおむけ寝を推奨している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

園は保育アプリやブログの活用を駆使して、保護者との信頼関係を深めようとしている

園は保護者との信頼関係を深めるために保育アプリを活用し、園での子どもの様子を、文章に写真を添えて毎日情報発信している。保護者の迎え1時間前に、当日の子どもの遊びや生活の様子を配信する仕組みをつくっており、保護者はその情報をもとに保育者に質問したり、より詳細な子どもの姿を確認したりできる。また月に1回園のブログで子どもたちの生活や遊びで起こった出来事を情報発信しており、園の考え方や保育内容を保護者に理解してもらう工夫に努めている。子どもの育ちにおいて園と保護者が共通認識が得られるよう配慮している。

職員自らが自分自身を伝え、保護者との信頼関係を積極的に築こうとしている

例年は年度当初4月に、各クラス保護者懇談会や親子であそぼう会を開催し、保護者同士が交流することを通して親睦が無理なく深められるように工夫してきた。しかし今年度はコロナの影響で、保護者同士で集まること自体が難しくなってしまった。そこで園は、職員紹介に工夫を凝らし、例えば職員の熱中している趣味や好きな食べ物、好きな絵本や歌などを紹介・掲示して保護者との交流を図っている。園に集まって直接のコミュニケーションすることが困難な状況だからこそ、園はまず自分自身を伝え、保護者との信頼関係を積極的に築こうとしている。

－

－

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点（〇〇）		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

子どもたちの生活の幅を広げるために、地域との交流を積極的に図ろうとしている

子どもたちが地域に散歩に出かければ、地域の人たちに挨拶をしたり、園の給食でお世話になっている豆腐屋さんに挨拶をしたりという、地域の人との関わりの機会を、保育者は意識的につくっている。（今年度は残念ながらコロナの影響で、こうした地域との交流は途絶えてしまっているが）幼児クラスを中心に行う「伝承遊び」においても、園に地域の人を招いて子どもが一緒に学び遊ぶ機会を設けている。園の近隣に共和会館と呼ばれる、地域の人のたまり場のような場所があり、そこに敬老の日に子どもがつくったプレゼントを届けたりもしている。

地域の人たちを呼び込む装置としての、園玄関わきのカフェの積極的な活用を期待したい

園としては、様々な地域交流・地域貢献をしていこうと努めているが、今年度は特にコロナの影響もあり、様々な取り組みが実現できていない状況にある。例えば育児相談や離乳食やおやつに関する食事相談、中学生の職場体験やボランティアの受け入れなど、中止せざるを得なくなっている。ただ園の玄関わきには、地域の人が自然と立ち寄れるカフェが設置してあり、地域の幅広い世代の人たちを呼び込む装置になっている。今後はこうした園の資源を積極的に活用し、子どもたちに豊かな生活体験の充実が図られることを期待したい。

園は、在園児と一時保育の子ども双方の生活体験の幅が広がるよう配慮している

入園していない子どものいる家庭向けの事業として「一時保育」を実施している。利用形態は、①週３日を限度にした固定曜日預かり、②家族の入院・冠婚葬祭などの月１０日を限度とした緊急預かり、③日常の用事を済ませるための月３日を限度としたリフレッシュ預かり、の3種類ある。定員は１２人程度で、2階に専用の保育室がある。一時保育の子どもたちは、専用の保育室だけで過ごすのではなく、在園の子どもと混ざって生活しており、例えば一緒に散歩に出かけたりもする。園は、在園児と一時保育の子ども双方の生活の幅が広がるよう配慮している。

《事業所名：木月ほほえみ保育園》

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	乳児期から、子ども同士の豊かな関わりが持てるような保育環境を作っている	
内容①	0歳児と1歳児の保育室は学年別ではなく発達別にグループ分けがされており、0歳児が1歳児の様子をじっくり見ることができるようになっている。自分の近くの少し上の子の発達を見ることから観察、模倣が始まり、それが意欲や探求心、運動発達へとつながっていき、こうした関わりが2歳児以降も続く。異年齢の関わりを通して、お互いの気持ちが合ったり、合わなかったりという経験を重ねながら豊かな子ども集団を形成できるよう、保育者は意図的な手作り玩具を用意するなど、子ども同士が自ら関わりを持って遊べるような工夫を環境の中に作っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	子どもの作品を積極的に展示することを通して、子どもの成長を可視化している	
内容②	昨年度、子どものやりたい活動を優先し保育を実践していったら、歌を歌うことや製作など表現活動が抜け落ちてしまうことがあったという。この反省を生かし、今年度は保育者が子どもに体験させたい表現活動がある場合、その順番を子どもに選んでもらい、意欲的に活動に参加してもらえるように工夫した。また子どもの描画や製作などの表現活動の成果を、保育室内に作品として展示して「見える化」することに力を入れた。こうした取り組みは、子どもの表現意欲を高めるとともに、保護者に向けて子どもたちの成長を可視化した点で、高く評価できる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保育ソフトの有効利用により、職員と保護者との信頼関係がしっかりと構築されている	
内容③	朝夕の引き渡しの際の会話など、日々のやり取りの面からも保護者支援が行われているが、保育ソフトを導入したことで、園からのお知らせや保育の様子などをタイムリーに写真で配信することができるようになった。保護者世代にもスマートフォンが普及しているので、この保育ソフトが、お互いに便利に使いこなせる、時代に合った情報交換ツールとして活躍している。こまやかな発信により、真心を持って子どもに接する保育者のハートが保護者にもしっかり伝わっており、アンケートでも90%近い保護者が「職員と信頼関係がある」と答えている。	

《事業所名：木月ほほえみ保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育室の環境を「遊」、「食」、「寝」を独立させ分けることで、子ども一人ひとりが自分のペースで生活できるように工夫している
	内容	子どもたちが自発的に意欲を持ち、遊びが始められるように各部屋にゾーンを設定している。各年齢の成長や発達を促すような玩具、遊具があり、乳児クラス（0・1・2歳児）では手の届くようなところに意図的に配置している。幼児クラス（3・4・5歳児）には常に絵本、ブロック、ままごと、製作、ゲームなどの興味、関心に応じた遊びがある。また保育室の環境を「生活・遊び、「食事」、「昼寝」を独立させて、それぞれ目的に応じて場所を区分けすることによって、子ども一人ひとりが自分のペースで生活できるように工夫している。
2	タイトル	経験や知識を持つリーダーが若手の力をうまく引き出し生き生きとしたチームをつくり、楽しみながら目指す保育にまい進している
	内容	開園3年目の今年度、主任と副主任が乳児／幼児のクラスにしっかりと入り、豊富な経験や知識をもとにさまざまなきっかけを若手に示しながら若手の意見やアイデアを引き出してきた。その結果、一人ひとりが自ら考え、率直に意見を出し合える生き生きとしたチーム、ベテランと若手の力が融合し、ひとつの目標に向かって共感するチームができてきた。これはまさしく園の理念「気づきと意欲を大切に」の具現化である。活発で明るい空気感の下で、保育者は保育を楽しみ、子どもたちは伸び伸びと園生活を楽しむことができている。
3	タイトル	常にフレッシュな気持ちで前向きでいられるよう、一人ひとりが意識的にメリハリをつけて勤務し、働きやすい職場風土をつくりだしている
	内容	新しい保育をつくり出していっている本園の若さと勢いを支えているのが、働きやすい職場風土。仕事のわかりやすさ、残業の少なさ、休暇・休憩のとりやすさといった、気持ちよく仕事をするために必要なことがしっかりと保障されている。特に勤務中の休憩時間については、意識的にクラスを抜け、事務所やカフェスペースでしっかりととることを心掛けているという。クラスを抜けるためには、本人の中のタイムマネジメントとチーム間の協力が不可欠。こうして作られた良好な職場風土が、チーム全体の前向きなマインドをしっかりと下支えしている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	常に子どもの姿を基本に据え、子どもの姿に応答した、遊び込めるゾーニングの創造に期待したい
	内容	室内には様々な遊びのゾーンを設置してあり、子どもたちが思い思いに楽しく遊べるように工夫してある。この保育者の工夫はたしかに子どもの関わりを深め、経験を豊かなものにしている。しかし一方で子どもたちが今一つ遊び込めていない場面も見られた。保育とは、子どもの姿に応答して保育者が支援方法を考えていく営みであるが、ゾーニングづくりにおいても同様である。子どもの姿からフィードバッグしてゾーニングの検討は始まる。こうした保育の基本に改めて立ちかえることで、子どもがより一層遊び込めるゾーニングに期待したい。
2	タイトル	明快な目標を定めて全員で取り組んだ10の姿の共同研究のような、主体的・対話的で深い学びにつながる研修を今後も計画してほしい
	内容	ベテランと若手がいいチームを作り園の理念の具現化に向けて邁進している今、不足している経験を補い、保育力を底上げする、保育の実践的な研修を進めていきたいと園は考えている。実際、全員で取り組んだグループワーク「10の姿の共同研究」は大きな学びになったという。これを今後の課題としてとらえれば、こうした、保育実践に直結する学びの継続。個々の学びを集団での学びにする研修、一人ひとりが主体的に取り組み、職員間の対話を生み、チームワークを強化する研修を、これからも計画的に進めていってほしい。
3	タイトル	フレッシュな気持ちで新しいことにチャレンジしている今だからこそ、保育の土台をつくりながら子どもを見守っていく中長期計画が望まれる
	内容	園は今、新しい保育を進めていく前向きなエネルギーにあふれている。保育室のゾーニング、季節の遊びの計画、行事の組み立てなども、これから次々と新しいアイデアで進められていくだろう。例えていえば今は、目の前に現れる課題を次々とクリアしていく感じかもしれない。しかしそんな今だからこそやっておきたいのは、園の長期計画ともいえる「目指す子ども像」の、具体的な保育の計画への落とし込み。今後の園の保育の土台をつくりながら、子どもを継続的に見守っていく、中期計画の策定が望まれる。